

五稜会病院 広報誌第70号 令和3年春～夏



新緑がまぶしい季節です。段々と夏らしくなっていきます。今年も、よさこい祭りは中止、その後は札幌での東京オリンピックのマラソン。無事終わって下さい。

新型コロナが猛威を振るっています。当院でも、令和3年4月に、職員と入院患者さんの感染が判明し、保健所からは1つの病棟全体が感染のリスクが高いと判断されてレッドゾーン対応になりました。幸いにして、入院患者さんのご協力、職員の懸命な努力で、2名のみ感染者に収まり事なきことになりました。

これを教訓に、引き続き感染対策を徹底して行ってきたいと思えます。ようやく、令和3年5月から当院でも新型コロナウイルスワクチンの接種が始まりました。ワクチン接種が、コロナの感染拡大防止の切り札になると考えられています。当院では5月24日から、75歳以上で当院通院者の方のワクチン接種を実施しています。今後は、65歳未満と年齢層が広がります。

非常事態宣言の下では、オンライン授業や在宅ワーク、自粛生活など行動に制限がかかりストレスが溜まります。忌まわしき新型コロナが早く収束して、通常のリアルな人間関係が築けたらと切に願っています。

医療法人社団五稜会病院理事長・院長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

五稜会病院では、最新の医療を提供出来るように、日々研鑽しております。例年通り、札幌市病院学会、北海道病院学会、日本精神科医学会学術大会などの地方会、全国学会、研究会へ積極的に参加していきます。

御案内

最近では、オンラインでの学会が増えてきました。Webでの学会・研究会は、実際に参加してみると、現地に行くよりも、交通費が掛からないし、数人での研修も可能です。当院でも、めばしい研修会はWebで行っています。しかし、現地に行けないとその土地の料理やお酒は堪能出来ません。早くコロナが収束して、自由に各地の名物を戴きたいものです。

学会・研究会

★第10回日本精神科医学会学術大会（横浜）

令和3年9月9日～10日 Web・ハイブリット開催

「五稜会病院でのADHDの診断と治療の取り組み」

中島公博

「隔離を繰り返し退院支援が困難だった双極性感情障害患者への支援-隔離中からリハビリ視点での介入を試みたケース」

中村英介

「精神科療養病棟の看護師が患者へ抱く陰性感情の詳細についての分析」

田中 愛

「デジタル利用者が初めて役割行動を起こすに至った要因～利用者の視点から～」

高橋真梨

★第117回日本精神神経学会学術大会（京都）

令和3年9月19日 Web・ハイブリット開催

「五稜会病院における入院患者の意思決定支援の取り組み」

中島公博

論文・エッセイのご紹介

「精神科領域におけるCOVID-19の影響について」

中島公博 札幌市医師会北区支部かわら版 2021

「「B」から「A」へ」

中島公博 札幌市医師会広報誌札幌医通信 2021

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

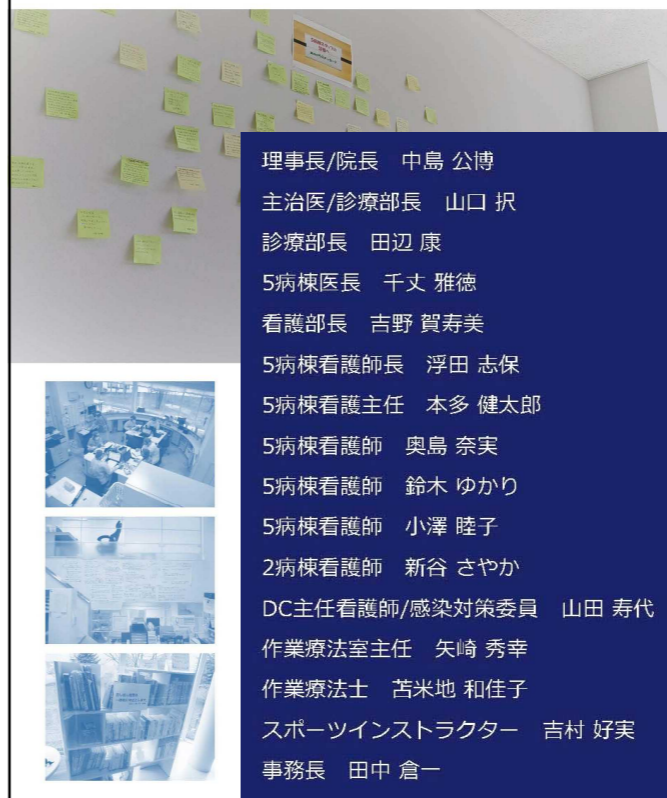
- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

最近の精神科医療政策のご紹介

★新型コロナウイルス（COVID-19）★

5病棟 COVID-19対応体験記

2021.4.20～2021.5.6



理事長/院長 中島 公博
 主治医/診療部長 山口 拓
 診療部長 田辺 康
 5病棟医長 千丈 雅徳
 看護部長 吉野 賀寿美
 5病棟看護師長 浮田 志保
 5病棟看護主任 本多 健太郎
 5病棟看護師 奥島 奈実
 5病棟看護師 鈴木 ゆかり
 5病棟看護師 小澤 睦子
 2病棟看護師 新谷 さやか
 DC主任看護師/感染対策委員 山田 寿代
 作業療法室主任 矢崎 秀幸
 作業療法士 苫米地 和佳子
 スポーツインストラクター 吉村 好実
 事務長 田中 倉一

令和3年4月20日に5病棟看護師の新型コロナ陽性が確認され、4月21日には入院患者1名の陽性確認、そして、4月22日から5病棟全体がレッドゾーンに指定され、新型コロナ対策で慌ただしい毎日が過ぎました。幸いにして、2名の陽性者に留まり、感染対策が功を奏しました。この取組は賞賛に値するものです。尽力して下さったスタッフならびに不自由な生活を余儀なくされた在院患者さんに感謝申し上げます。次の感染対策の参考にするために、関わったスタッフの体験談をまとめました。

新型コロナウイルスワクチン

令和3年5月から、当院の職員に対してファイザー（株）のCOVID-19に対するワクチン「コミナティ筋注」の接種を開始し、6月には2回目の接種を終了しています。5月24日からは、75歳以上の当院通院者を対象にワクチン接種を行っています。続いて全年齢を対象が広がって行きます。当院通院中の方は、五稜会病院でワクチン接種が可能ですので、希望される方はお申し出下さい。

**当院は患者さん本位の医療を提供しようと
考えております。**

お気づきの点はお相談下さい。

治験のご協力をお願い

現在、当院では「うつ病」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬（薬を創り出す）は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。
うつ病（成人）

抑うつ気分、興味喜びの喪失感等の症状があればうつ病の診断になります。抗うつ剤を使っても効果がない場合に、補助として抗精神病薬を加えると改善することもあります。新たに、統合失調症の治験を開始する予定です。

IRB（治験審査委員会）

治験を実施する際に、倫理性に問題がないか、治験参加者の「人権」と「安全性」に問題が無いかなど、治験の倫理性、安全性、科学的妥当性を審査する組織です。五稜会病院では、月に1回開催しています。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数 193床

急性期病棟 48床

ストレスケア・思春期病棟 48床

療養病棟 A 49床

療養病棟 B 48床

従業員数 約200名

医師数 常勤 8名 非常勤 5名

看護師 71名 准看護師 10名

薬剤師 2.5名

臨床検査技師 1名 非常勤 4名

臨床心理士 9名（公認心理師 8名）

作業療法士 10名 スポーツインストラクター 5名

精神保健福祉士 10名 管理栄養士 2名

五稜会病院沿革

開設 昭和47年（1972年）

医療法人開設 平成2年（1990年）

編集後記

新型コロナが発生してもう1年も経ちました。こんなに長く続くとはい、思いもよりませんでした。ワクチン接種がようやく始まって、これから、この閉塞感が開放されるのを切に待ちたいですね（K.N）

発行：令和3年5月25日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 竹原幸佑・中島公博

電話：011-771-5660

http://www.goryokai.com

mail：GMC@goryokai.com

自動受付システムを導入しました

新型コロナウイルス感染対策を兼ねて、自動受付システムを導入しました。

外来患者さまが職員と接することなく受付ができる機械で、画面のワンタッチで受付ができるよう簡略化しています。今後は、オンライン認証システムと合わせて、よりスムーズな受付を目指します。

また、個人情報保護の観点より診療、会計までのお呼び出しを番号で対応させて頂く事としました。

外来診療では今まで同様に『外来コンシェルジュ』が、患者さまの診察までのご案内をさせていただきます。

ご不明な点がございましたら、お声かけください。(医事課



新型コロナウイルスワクチン接種を開始(予約)しました

6月15日より 毎週火・木曜日の17時以降に60人程度の接種枠を設け、高齢者の方の診療時間外での集中接種を開始しました。当面は、当院通院中の患者さまを優先して接種を行います。その後、目処が立ち次第、基礎疾患(精神疾患)の方への接種が開始されます。当院では院内の感染対策での目的を含め、積極的な接種を行って参ります。また、関連医療機関(医療従事者)の方への接種も行っております。7月には、職員や関係機関の家族への休日での大規模接種を予定しています。



リワーク(復職支援)デイケアから

取り組みの一部をご紹介します ~情報誌編集プログラム~

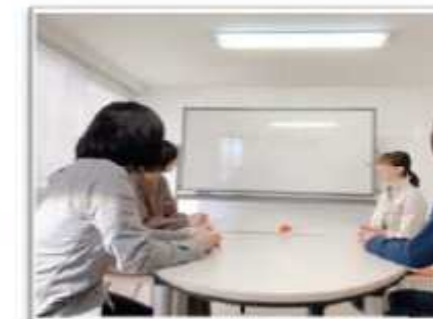
“働く人のメンタルヘルスに関する情報誌を作る”をテーマに、参加者の皆さんにプロジェクトチームとして動いてもらいます。約3ヶ月にわたり、立案、構成、文章作成を行い、完成した情報誌は外来とストレスケア病棟に設置し、他人の目に触れる機会を持たせています。プログラム自体が職場場面に近い構成となっているため、参加者の仕事の進め方や考え方、職場での振る舞いやコミュニケーションが再現されやすいという特徴があります。本人が自ら課題に気付けるだけでなく、行動変容を実験的に試みる機会にもなり、復職後の生活に定した実践的なプログラムとして位置づけています。



(リワーク主任 清水陽)

デイケア『たんぽぽ』 主治医の変更なく通所が可能に

1日60名の方が利用している大規模デイケアです。利用者は10代から70代と年齢層の幅広い男女で、疾患及び目的も多様です。例えば「外に出る機会にしたい」「人と上手く付き合えるようになりたい」「体力を付けたい」「次のステップに進みたい」など、利用者の目的に向けたサポートを行っています。活動日は、病院診療のある月曜日～金曜日・土曜日も月2回開催しています。



利用者の希望を取り入れ、主体的に活動していただけるようなプログラム提供を心がけています。主体的な活動の1つとして、利用者の声掛けで立ち上げたサークル活動も増えており、バレーサークル、卓球サークル、羊毛サークル、囲碁・将棋サークルなど、多くのサークル活動を行っています。当デイケアの特性として、少人数ではありますが



代を対象にしたプログラムに力を注いでいます。例えば中々登校できない人や進路相談など些細なことも相にのっています。また通常のプログラム以外にも、きたいと思いはあるが、中々一歩が踏み出せないプログラムや女性のための内容など、一人一人の目標合わせたプログラムを開催しています。その人の役立てるような支援をスタッフ一同心がけて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

(デイケアセンター長 鈴木美伸)